

関西大学東西学術研究所にて、2月9日（土）に「越境の映画史」と題した研究例会が開催されます。映画史におけるさまざまな越境の事例を、4本の研究発表によってふりかえります。謝嘉鋹『ブロッキーを探して』をはじめとする関連作品の参考上映も含め、盛りだくさんの内容となっておりますので、みなさまのご来場をお待ち申し上げます。

## 越境の映画史 東西学術研究所 研究例会（比較映像文化班）

日時：2013年2月9日(土)

場所：関西大学千里山キャンパス 以文館4階セミナースペース

### ■第1部 参考上映(13:00~15:15)

- ・ 謝嘉鋹『ブロッキーを探して』尋找布洛斯基(台湾、2009年、60分、英語字幕)
- ・ 岳楓『蕩婦心』(香港、1949年、抜粋上映、約20分、字幕なし)
- ・ マックス・ランデー主演作品(英語字幕)
  - リュシアン・ノンゲ『湯壺の失敗』Max prend un bain(フランス、1911年、4分35秒)
  - アルベール・カペラニ『お伽の森』Vie de Polichinelle(フランス、1906年、7分32秒)
- ・ ルイス・トレンカー『銀嶺に帰れ』Der verlorene Sohn(ドイツ、1934年、抜粋上映、約30分、英語音声)

### ■第2部 研究発表(15:30~18:00)

司会 堀 潤之(研究員・文学部准教授)

- ・ 菅原慶乃(研究員・文学部准教授)  
「中国侮辱映画」への抵抗・ナショナリズム・文化貿易——『危険大歓迎』事件とその前後
- ・ 西村正男(関西学院大学教授)  
トルストイ『復活』と中国語映画
- ・ 大傍正規(フィルムセンター研究員)  
新しい身体性と編集のリズム——越境者マックス・ランデーに注がれたまなざし
- ・ 竹峰義和(東京大学准教授)  
さまよえる反逆者——1930年代のルイス・トレンカーの越境的活動をめぐって

主催:関西大学東西学術研究所

協賛:中国文芸研究会映画の会

詳細（ポスター、および発表要旨等）は以下のPDFファイルをご覧ください。

<https://dl.dropbox.com/u/3975873/Poster.pdf>

<https://dl.dropbox.com/u/3975873/Resume.pdf>

大学へのアクセスに関しては、以下をご覧ください（以文館は、2番目のURLの7番の建物です）。

<http://www.kansai-u.ac.jp/global/guide/access.html>

<http://www.kansai-u.ac.jp/global/guide/mapsenri.html>